

2015

2

[ワウ]

No.03

マレー風Wau(ワウ)のように、色鮮やかで誇り高いマレーシアの伝統芸能、ごはん、映画に焦点をあて、専門家がディープにご紹介するフリーペーパー

TAKE FREE

Malaysia Cultural Post

芸能・映画・ごはん...ディープに伝えるマレーシア文化通信



マレーシア人として、日本初のメジャーデビューを果たした歌手アイズディーン。2010年3月にアルバム「Hadiah」をリリースし、自身のライブ活動や楽曲制作のほか、NHKドラマのBGM音楽を担当するなど、活躍の場を広げています。包みこむような優しい声で歌うラブソング。甘いマスクも相まって、ライブ会場には多くの女性ファンが「I♡AIZ」のプラカードを掲げて声援をおくっています。また最近では、ポップス音楽だけでなく、マレーシア民族舞踊団「ムカルブダヤ※1」のダンサーとしても活躍。故郷で親しんでいた民族楽器コンパン（マレーシアの太鼓）のドンパツ、ドンパツ、ドウドウカツ、ドウドウカツというリズムに、マレーシア人としての血が騒ぐといえます。「マレーシアに素晴らしい文化があることを日本人に伝えていきたい。青春時代を日本で過ごした僕にとっては、日本も故郷のようなもの。2つの故郷をつなげる活動は、ごく自然なことだから」と語ります。

2つの故郷を マレーシア人歌手 音楽でつなぐ Aizdean

取材文 Oto Furukawa (Writer, Malaysia Food Net)

写真 藤繁望

ルッキースト政策で憧れの日本へ

作詞作曲を手がけるアイズディーン。日本語の歌詞に胸がキュンとさせられるのですが、日本語の習得にはかなり苦労した、といえます。18歳のとき、マレーシア政府の「ルッキースト政策」(東方政策。西欧にかわってアジアの先進国である日本、韓国に学ぼうという政策)の一貫で来日。大学進学前の1年間は、日本語学校で毎日12時間以上の猛勉強。入学後も放課後は日本語のレッスンや日本文化の特別授業にあてました。その努力が実り、アイズディーンの話す日本語はとても美しく、漢字もほぼ完璧。故郷のマレー語、英語、日本語の3か国語を自由自在にあやつる見事なトリリンガル。ただ、今でも、日本語のニュアンスが難しいそう、歌詞を考えるときは身を削る思いだとか。いつか、山口百恵の「秋桜」のような歌詞を書くのが夢だそうです。

パワーの源は故郷の料理

さて、マレーシアを恋しく思う瞬間はありますか?と聞くと「ごはんを食べているとき」とのこと。和食も好きだが「マレーシアの料理は世界で一番」と胸を張ります。ヨーロッパでのレコーディング中、今まで何気なく食べていた故郷の料理のおいしさに目覚め、それからというもの東京のマレーシア料理店に足繁く通い、マレーシア関連のイベントではサテーやカレーパフ※2などを大人買い。ちなみに、マレーシア料理の中で、アイズディーンのいちおしは、「一度凍らせたサテー」。「小さいころにサテーを買って、食べ切れずに冷凍庫で保存したら超おいしくて、それからハマっています。冷凍保存している間に、タレが鶏肉の中までしみこんで、食べる時は自然解凍でどうぞ」とのこと。

好きな色は青。そこに赤色をアクセントで使ったのがアイズディーン流のファッションスタイル。「赤い色のイメージは、辛くておいしいマレーシアの色だから」と茶目つぱに教えました。

Hadiah ~The First Step~

2010年3月にリリースしたファーストアルバムのタイトル「Hadiah」は、マレー語で「贈りもの」という意味。しっとりと日本語で歌う恋のバラードは、すぐに口ずさみたくなるほど心地良い曲ばかり。おすすめです。



インターネットで購入可

気取らずオープンな自然体。それでいて、話していると、いつの間にか惹きこまれていくような強いオーラがあります。インタビュを通して、彼のアイデンティティには、故郷マレーシアだけでなく、大学時代からずっと暮らしている日本という国の文化もたしかに含まれていることを感じました。様々な経験はその人の部となり、次の可能性を生み出していく。それがきっと、アイズディーンの魅力をもさらに増しているのです。

※1 マレーシア民族舞踊を研究し披露しているグループ。メンバーは日本人を中心に構成。

※2 サテーは、スパイスに漬けこんだ肉を炭火で炙ったマレーシア版の焼き鳥。

カレーパフは、カレー味のじゃがいもを小麦粉の生地で包んだおやつ。

Aizdean / アイズディーン

マレーシア出身、1983年2月13日生まれ。2009年に日本で歌手デビュー。初のマレーシア人歌手として注目を集め、現在はライブハウスやイベント会場で歌声を響かせている。また最近では、故郷マレーシアでも、日本で活躍する歌手としてイベントに招待される存在になっている。

www.aizdean.com www.facebook.com/AizdeanFP twitter.com/aizdean



エドモンド・ヨー監督「破裂するドリアンの河の記憶」



『ノヴァ』で来日したシャリファ・アマニとフロント・バラエと ODD PICTURES



数々の国際映画祭で紹介された「美しい洗濯機」



ジェームズ・リー監督、ピート・テオ主演の「黑夜行路」

今回の WAU 映画コーナーで最初にご報告したいのは、2014年の第27回東京国際映画祭でコンペティション部門に若手監督、エドモンド・ヨーの「破裂するドリアンの河の記憶」が、マレーシア人として初めてノミネートされるという快挙を成し遂げた事です。東京国際映画祭は、かつてはヤスミン・アフマドやホー・ユーハン、ジェームズ・リーなどマレーシア・ニューウェーブの監督達の作品が、アジアの風「マレーシア映画新潮」として特集上映されるなど、マレーシアのクリエイターにとってはあこがれの映画祭でもあります。加えて、昨年は、マレーシアのインディペンデントプロデューサーの初長編作品※1『ノヴァ〜UFOを探して〜』も「アジアの未来」部門で上映され、個人的にも親しいマレーシアのクリエイター達が日本に紹介された事をとても喜ばしく思いました。

実は、この映画祭の直前、私は WAU2号でご紹介したピート・テオの主演作『黑夜行路』の監督でもあるジェームズ・リーについて取材するために渡馬していました。このジェームズ・リーは、中国系のマレーシア人監督として初めて第17回東京国際映画祭（2004 年）にノミネートされた※2人物で、エドモンド・ヨー監督らの大先輩とも言える人物です。第18回東京国際映画祭におけるヤスミン・アフマド監督の最優秀アジア映画賞受賞（『細い目』）よりも1年早く、彼は日本に紹介されていました。彼がいち早く日本に紹介された理由の一つに、その当時始まったばかりのデジタルでの映画制作の世界的な先駆者であったということが挙げられます。今回は、常に新しい可能性にチャレンジしている気鋭のクリエイター、ジェームズ・リーについてご紹介いたします。

デジタル撮影した低予算の作品で 新境地を拓いたマレーシア・ニューウェーブの台頭

東京国際映画祭では、第4回(1991年)のアザト・カーン監督の『ビレッジボーイ』以降、マレーシア監督の作品は紹介されていませんでした。その後、第18回(2005年)でヤスミン・アフマド監督の『細い目』が最優秀アジア映画賞を受賞した事を皮切りに、翌年の第19回東京国際映画祭アジアの風「マレーシア映画新潮」で、ヤスミン監督の『ラブン』『細い目』『グブラ』『ムクシン』の「オーキッド4部作」をはじめ、ホー・ユーハン監督の『レイン・ドッグス』、タン・チュイムイ監督の『愛は一切に勝つ』など、いわゆるマレーシア・ニューウェーブ達の9作品が一挙公開され、その中にジェームズ・リー監督の『私たちがまた恋に落ちる前に』も含まれていました。

いくつもの「初めて」で マレーシア映画史に足跡を残す

ジェームズ・リーは2000年頃から、いくつかのデジタル作品を発表し、次々と国際舞台で評価されました。彼のプロデュース作品で、アミール・ムハマド監督の『ビッグ・ドリアン』は、サンダンス映画祭に招待された初のマレーシア映画であり、2007年にはマレーシア初のデジタル映画製作の先駆者としてフランスのドーヴィルアジア映画祭が、ジェームズ・リーをスペシャルフォーカスするなど、いくつもの「マレーシアで初めて」を成し遂げました。彼ら、デジタルフィルム制作者同士は、時には監督、また時にはプロデューサー、俳優として、と協力しながら制作をしていたことがフランスのヌーベルヴァーグのような印象を与えた「マレーシア・ニューウェーブ」と呼ばれたのです。

インディペンデント フィルムメーカーの プロデューサー 監督 俳優 ジェームズ・リー



取材・文 Rie Takatsuka
写真提供 James Lee

「マレーシア新潮」のその後

前号でご紹介したピート・テオが、マレーシア・ニューウェーブの牽引者であるならば、ジェームズは、彼らの映画制作という技術的な部分を底から支えていたオピニオンリーダーと言って間違いないでしょう。しかし、このマレーシア新潮は、その後大きく展開することなく、当時活躍していた監督達もそれぞれの道に進み、新たな注目作品も出ないまま今に至っています。私はジェームズに、なぜマレーシア・ニューウェーブは立ち止まってしまったのか聞きました。彼は、マレーシアの映画産業には、若手育成の適切な文化が整っていないのが一番の原因だと言います。さらに、当時の自分たちがマレーシア・ニューウェーブと呼ばれていたことについてどう思っていたかを尋ねると彼は、「個人的にマレーシア・ニューウェーブ

はただのトレンドで、予期せず起こっただけだと思っていました。ほとんどの新潮やトレンドがそうであるように、それらは最終的には終わりに達します。永遠にその波に乗っていることは不可能なのです。でも、それは良い事だと思います。なぜ波と呼ぶか。波は引き、また新たな才能とともに戻って来るものだからです。だからこそ私は常に、映画製作者としてのいろいろな可能性を模索しているのです」と答えてくれました。マレーシア・ニューウェーブの一波が去った後、マレーシアのインディペンデントの作品の多くは、国際映画祭に流通するチャンスも少なくなりました。彼は既存のマーケットに頼っている自分たちの作品が、世に出るチャンスはないということを認め、既存の配給システムに頼らずに作品を広めて商業化することに力を入れることにしたのです。

秀逸な作品が手軽に視聴できる Doghouse73 の YouTube チャンネル

ジェームズは、その決意を裏付けるように、映画制作者の新たな可能性を引き出すべくオリジナルレーベルでのインターネット配信など、インディペンデント映画のプラットフォームを構築しています。彼のプロダクション、Doghouse73が2013年に第1弾、翌年第2弾をリリースした、鬼節『三重門』というホラー作品のシリーズは、若手監督3人によるオムニバスです。低予算ながら緊張感溢れる演出でドキドキ・ハラハラ。第1弾では、前述のエドモンド・ヨー監督もその一つを手がけています。ジェームズは多作の監督としても著名ですが、そのほとんどをDoghouse73のYouTubeチャンネルから配信しているので、この作品も日本から視聴する事ができます。こうして国境を超えて多くの人に

作品を観てほしいという彼の活動は、どんどんその輪を広げ、今私たち日本人のもとにも届こうとしています。ジェームズの活動は、マレーシアニューウェーブの第二波となるか。彼のYouTubeチャンネルは下記で見える事ができます。是非チェックしてみてください。

Doghouse73のYouTubeチャンネル
<http://youtube.com/doghouse73pictures>

James Lee / ジェームズ・リー

1973 年、イポー生まれ。グラフィックデザイナー、舞台役者を経て、2000年頃からテレビ番組、長編映画などのディレクターとして活動始める。デジタルフィルムメーカーの先駆者として国際的に評価され、マレーシア・ニューウェーブの台頭としてその名を知られる。映像プロダクション Doghouse73 を運営。

※1『ノヴァ〜UFOを探して〜』は ODD PICTURES がマレーシアで撮影した「クアラルンプールの夜明け」に出演したフロント・バラエが主演、同映画のヒロインで WAU 創刊号の表紙でもご紹介したシャリファ・アマニもカメオ出演しています。次号で詳しくご紹介する予定です。
※2「美しい洗濯機」と「四人夜話」(オムニバス作品)が第 17 回東京国際映画祭「アジアの風」で上映されました。



3 Doors of Horrors 鬼節・三重門シリーズ(左から)三重門 2013 [Floating sun] (エドモンド・ヨー監督)、[Horror mission]、三重門 2014 [Delete]、[Turnover]

彩る 昇 節を 芸能



取材・文・写真 Aki Uehara (Mulara Arts Production)

中国本土からマレーシアに伝えられた芸能は、今でも様々な行事や中華系の祭事にあわせて演じられています。今年は2月19日に旧暦のお正月「春節」を迎えるマレーシア。各地で眩しいほど色彩豊かな芸能を楽しむことができるでしょう。ペナン島で開催された三つの芸能のパレードの様子取材してきました。印象的だったのは、どのグループにも多くの若者、子供たちが参加し、大人たちに負けずに芸能を受け継いでいることでした。

Lion Dance 舞獅

愛嬌あふれる獅子が
新たな年に繁栄・幸運をもたらす

日本の獅子舞とはずいぶんと様相が違い、丸みのある大きな目と口が印象的なマレーシアのライオン・ダンス。白や黄色、赤など色鮮やかなライオンで、前脚と後脚に二人ずつ演じ手が入り、二人が呼吸をあわせて躍動的な動きを見せます。繁栄、調和、共生などを象徴すると言われるライオン・ダンスは、春節のほか、お店の開店、結婚式などでも演じられます。

目をパチクリして、耳を動かしたり、用意された柱数本を前にブルブル震えたり、愛嬌たっぷりの演技にこちらも笑顔。と思うのもつかの間、1.5メートルほどの柱に飛び乗り大きなライオンが柱の上で立ち上がった。柱を跳び渡ったり、アクロバティックな動きにこちらも目を丸くします。

ライオン・ダンスの伴奏は、遠くにおいても激しい音が響いてくるほど賑やかです。太鼓や銅鑼、シンバルは、喜びや悲しみ、怒り、怯えなど、ライオンが表現する動きに合わせてリズムやテンポ、強弱を変え、演じ手や観ているものの気持ちを高めます。行進するライオンの後ろについている音楽隊は色鮮やかに装飾され、電飾がピカピカしていたり、お祭り気分を演出。華やかなリヤカーに乗って太鼓を叩くおじさんとのギャップが微笑ましい。その周りにはこの芸能の未来の担い手たちがたくさん。

旧正月の間は民家や店舗を軒軒周り、「Cai Qing (採青)」といって、中国語の発音が近い「Cai」「採」「財」「菜」から、高い所に設置されたレタスのような「青菜」を「採り」、その中にある赤い封筒(アンパオ)の「財」を受け取ります。

Dragon Dance 舞龍

勢いよく舞うドラゴン・ダンス
空想上の龍に出会う

鋭い目に牙を剥いた口。鮮やかな黄色やオレンジ、赤色に彩られた20メートル以上の長い胴体が勢いよく動き回る「龍の舞」。ドラゴン・ダンス。10代から20代の若き遣い手10人ほどが胴体につけられたポールを持つて操ります。その起源は2000年以上も昔、中国、漢朝の時代にまで遡るといいます。豊穡、幸運をもたらす特別な力を持った神聖な龍として祭事に演じられ続け、長い歴史の中で変化をしながら中国全土のみならず、世界の中華系コミュニティに広がり、マレーシアまでやってきたわけですね。

龍の胴体をすごい速さで前方から順に上げたり、下げたり、左右に振ったり、グルリと体を巻いたり、それはもう生きた龍そのもの。力と尊厳を表現するという龍は、前方の球「英知の真珠」を追って軽快に飛び回り、空に舞う。その動きは猛々しいけど、流線の動きが美しい！

遣い手全員の呼吸とタイミングが合ったとき、龍に魂が宿ります。それを支えるのが太鼓や銅鑼、シンバルが刻む細かい拍子とリズムなのです。激しい龍の舞が目の前を通り過ぎて行くと、空想上の龍に本当に出会えたような気持ちになります。

Chingay Parade 大旗鼓

空に向かってそびえ立ち、
風にゆれる大旗チンゲイ

高さ25から32フィート(約7.6から9.8メートル)ほどもある竹の支柱にはたく大旗、あんなに巨大な旗は見た事がない！パレードの前、大旗が広場に集合すると、それはもう庄巻ーマレーシアの国旗、ペナン州の旗、企業広告の入った旗、色とりどりの旗を眺めている自分の口がポカンと開いていないことを確認する。上の方の旗に気を取られて見上げていたら、よく見るとその旗のポールは、男性の顎で支えられているではありませんか。チンゲイは、重さ27キロほどもある大旗。その支柱を顎や額で支えてバランスを維持します。

天候や風向きを考慮しながら、この旗を支える技を身につけるには相当の訓練が必要とされるでしょう。風に吹かれて倒れそうになる旗を走り回って支える。その走る姿はちよつと滑稽な感じもします。周りの仲間には大きな旗が倒れても人々が怪我をしないように安全を確保します。

チンゲイは、もとは観音菩薩などを崇める祭事の中で演じられ始めたそうです。かつてペナン島では、2000年以上の歴史がある観音寺の神々への奉納として演じられていました。現在は、毎年恒例のパレードや、難易度の高い技を競う大会、州の公式行事、そして春節の行事の際に見ることが出来ます。若者たちは、ご先祖様への敬意を持ってこの芸能に向き合っています。

マレーシア文化講座 開催

マレーシアの伝統文化・芸能、ごはん、映画の魅力を専門家の視点でディープにお伝えする文化講座。映像、写真などをまじえてお伝えします。

【お問合せ・お申込み】
info@hatimalaysia.com

- | | | | |
|-----|-------------------------|-------------|--------------|
| 第1回 | 2月1日(日) | 14:00-16:00 | @日比谷図書文化館会議室 |
| 講師 | 上原 亜季(マレーシア伝統文化・芸能の専門家) | | |
| 第2回 | 3月6日(金) | 19:00-21:00 | @日比谷図書文化館会議室 |
| 講師 | 高塚 利恵(日馬合作映画プロデューサー) | | |
| 第3回 | 4月11日(土) | 14:00-16:00 | @マレーカンボン |
| 講師 | 古川 音(マレーシア料理専門家) | | |



アヤム
本格アジア料理を手軽に

マレーシア発の老舗ブランド「アヤム」。
ココナッツミルク、カレーペーストで、
ご自宅で簡単にアジア料理が作れます！

<http://www.ayam.jp>
<http://www.nbkk.co.jp>





WAUgallery Chinese New Year 春節

Oh Chin Eng 写真 | Aki Uehara 文

春節、それは赤色の季節。食卓を彩るご馳走の数々。親族が集い新しい年を迎えます。「竈（かまど）の神」は、その家の一年の善行・悪行を天界の神「玉帝」に報告にあがる。特別な供え物をして祭祀を行います。神々の世界と先祖との関わりをより深く感じる旧正月。寺院の前に並ぶ供え物と線香の煙の中を多くの参拝者が行き来する。夜通し響きわたる爆竹にさえ心躍る季節です。

- 📷 年長者を敬い、新年の挨拶をし、彼らの長寿を祈る。いろんな話を聞きながらカメラを向ける。
- 🍡 春節の供え物に欠かせない蒸した餅米のお菓子「年糰 Tnee kuih」を作る。
- 🐉 邪気を払い、幸運・繁栄をもたらす獅子舞。こちらは中国北部由来のライオン。
- 🏮 旧正月9日目は「玉帝」の誕生日。ペナン島のチュー・ジェティ、供え物を並べた家の前は人々に溢れる。
- 🏮 提灯や色とりどりの電飾で輝くペナン島の極楽寺。



**マレーシア
リゾートクラブ**

<http://mrcj.jp>

マレーシア、ボルネオ地域専門旅行会社
(株)エムアルシージャパン / 東京都知事登録旅行業 3-5248 号



カフェ
よたっこ
<http://yotacco.exblog.jp>
おらがちの畑のもの
畑の野菜と地粉とお豆さん



**イエナ商事
株式会社**

<http://www.yehna.co.jp>
パームフルーツオイル
「カロチーノ」の日本総輸入元

WANTED
サポーター・広告募集

WAUを応援してくださるサポーターを募集
しています。詳細はお問合せください。印刷
費などの活動資金として、大切に使用します。

**日本マレーシア
倶楽部**

<http://nichima-club.org>
日本とマレーシアをつなぐ



**ムティアラ・
アーツ・
プロダクション**

<http://mutiara-arts-production.com>
文化交流事業の企画制作、通訳・翻訳業



**オッド
ピクチャーズ**

<http://odd-pictures.asia>
国内外映像映画制作・マレーシアロケ



**マレーシア
ごはんの会**

<http://www.malaysiafoodnet.com>
日本でマレーシアごはんを楽しむ会



古川 音
Oto Furukawa

ライター。首都クアラルンプールに 4 年滞在した経験を活かし、「All About」や「CREA」ウェブサイトにてマレーシアの記事を執筆。また「マレーシアごはんの会」にてイベントや料理教室を主催。
古川音 HP <http://www.otofurukawa.com>
マレーシアごはんの会 HP <http://www.malaysiafoodnet.com>



上原 亜季
Aki Uehara

ムティアラ・アーツ・プロダクション代表。AFS生として一年間マレーシアの高校に留学。Universiti Sains Malaysiaの大学院にてマレーシアの伝統芸能の研究を行い、修士号取得。国際文化会館勤務を経て、現職。東南アジア芸能コーディネーター、イベント企画・制作、記事執筆、マレー語通訳・翻訳。 <http://mutiara-arts-production.com>



高塚 利恵
Rie Takatsuka

映像プロダクション、オッドピクチャーズ代表。インディペンデント映画プロデューサー。日本国内にて映像によるプロモーションの企画、撮影。マレーシアの映像制作プロダクション(ODD PICTURES MALAYSIA)と連携した映像・映画製作など。
HP <http://odd-pictures.asia>